

じんけん

啓発紙 2018年 通巻63号

考えました、人権のこと。

12月の人権週間に合わせてイベントを開催しました。人権について考えるよい機会になりました。



＜人権講演会：島田市民総合施設プラザおおるり＞



＜人権シンポジウム：伊東市健康福祉センター＞



＜人権フェスティバル：袋井市メロープラザ＞

「ふじのくに人権宣言」実践4項目 (平成16年12月15日 静岡県人権会議)

- 1 自分の人権はもちろん、他人の人権をも敏感に感じる心を養います。
- 2 日ごろから人権問題に関心を持ち、自分自身の問題として考え、行動します。
- 3 家庭や地域社会、職場などで、人権問題について話し合う機会を作ります。
- 4 個性の多様性を受け入れ、異なる個性と共存していくという意識を持ちます。

も く じ

- ふじのくに人権フェスティバル
- 人権講演会
- 人権シンポジウム
- 企業と人権セミナー
- 人権啓発センターからのお知らせ
＜新着図書 新着DVDの紹介＞

- P 2～P3
- P 3
- P 4
- P 5
- P 6



ふじのくに人権フェスティバル 12月19日(火) 袋井市メロープラザ

静岡県人権啓発活動ネットワーク協議会（静岡県方法務局、静岡県人権擁護委員連合会、静岡県、静岡県教育委員会、静岡市、静岡市教育委員会、浜松市、浜松市教育委員会）と袋井市の共催で、ふじのくに人権フェスティバルを開催しました。

全国中学生人権作文コンテスト静岡県大会受賞者の表彰、ふじのくに人権宣言の唱和（表紙参照）のほか、北京・ロンドンパラリンピック競泳日本代表の伊藤真波さんによる講演を行いました。

第1部 式典 全国中学生人権作文コンテスト静岡県大会 表彰式 他

県内194校の中学校12,415編の応募作品の中から次の皆さんが受賞されました。

- 最優秀賞
（静岡県方法務局長賞）
すぎもと ゆかり
杉本 優香理さん（伊豆の国市立葎山中学校）
- 最優秀賞
（静岡県人権擁護委員連合会長賞）
すずき ここ
鈴木 瑚々さん（静岡大学教育学部附属島田中学校）
- 特別賞
（静岡県教育委員会教育長賞）
かわらさき もえ
河原崎 萌さん（御前崎市立浜岡中学校）
- 特別賞
（静岡新聞社・静岡放送賞）
さの まさや
佐野 公哉さん（袋井市立袋井中学校）
- 特別賞
（日本放送協会静岡放送局賞）
おさだ もえ
長田 萌さん（富士宮市立富士根南中学校）



＜最優秀賞受賞の皆さん＞



＜特別賞受賞の皆さん＞



＜袋井人権擁護委員協議会による展示＞

第2部 講演「あきらめない心」講師：伊藤 真波 氏（北京・ロンドンパラリンピック競泳日本代表）



不慮の事故で右腕を失っても、「腕がないのは私の個性」と胸をはって夢に向かって突き進み、日本初の義手の看護師となり、競泳選手としても2度のパラリンピックへの出場を果たした講師に、「あきらめない心」と題してお話いただきました。

〔講演要旨〕20歳の時、不慮の事故によって右腕の切断を迫られた。目標も失いかけた。腕がないこと、健常者と同じことができないことを理由にイヤなことから逃げ続けていた時期もあった。しかし、苦しいリハビリの中で、自分の障害を受け入れ懸命に頑張っ

いる人たちの姿に触れ、「強い人間になりたい」と思えるようになっていった。看護師になる夢を諦めず、学校に復学して勉学に励み、今は看護師として特別な義手により注射もこなす。水泳もリハビリとしてやり始めた。傷跡も隠すことなくありのままの自分の姿で、練習に励み、パラリンピックという世界の舞台に日本代表として出場することもできた。不便なことはあるけれど自分なりの方法で、育児にも励んでいる。最近バイオリンにも挑戦している。



人には他人に言えない傷がある。大切なもの、大切な人を知ること、人は他人に優しくできる。世の中悪い人ばかりではない。私の周りには助けてくれる優しい人がいる。この街をこの姿で歩いていく。挫折に向き合い、夢に挑むこと、それが「あきらめない心」なのだ。

〔参加者の声〕

- ・受賞者の作文朗読はとても素晴らしく、同世代の中学生の参加はとても意義のあることだと思いました。(一般)
- ・伊藤真波さんの講演を聞いて、人権問題について関心を持ち、偏見を持ったり、差別しないようにしたいと感じました。(中学生)
- ・講師の力強くたくましい姿に感銘を受けました。演奏も大変素晴らしかったです。「障害を持ってはじめて人のやさしさを素直に受け入れることができる」という言葉が強く心に残りました。相手の気持ちを考えて行動しようと思いました。(中学生)

人権講演会 12月6日(水) 島田市民総合施設プラザおおるり

「認知症の理解と地域包括ケア～人権・権利擁護の視点から～」

講師：まつもと いっしょう 松本 一生 氏 松本診療所（ものわすれクリニック）院長



多くの認知症の方やその家族、支援者等に寄り添いながら、認知症のご本人や周囲の方々が生き生きと安心して暮らすためのヒントについてお話いただきました。

〔講演要旨〕認知症には、アルツハイマー型、血管性、レビー小体型などがあり、それぞれに記憶障害などの特徴的な症状がある。それに加えて、徘徊・うつ・暴言などのその人の性格や環境が絡み合って起こる症状があるので、認知症とひとくくりにはせず、目の前の人に必要

な支援をしていく必要がある。

認知症は、家族や介護者にとって深刻な負担となることへのケアも欠かせない。「私は介護で辛い思いをしたことがない」といった家族の発言は、むしろ追い詰められた介護放棄直前のサインでもある。介護者を孤立させず、支援することまで含めた包括的な取組が必要である。家族、医療、福祉で、みんなが関与しながら観察を続け、何かあったらすぐに動ける状況をつくっておきたい。

〔参加者の声〕地域包括ケアは、認知症の人だけではなくその家族を含めてのケアだとわかりました。家族の人権についてもお話いただき、認知症の母と向き合う心が変わりました。

人権シンポジウム 12月4日(月) 伊東市健康福祉センター

基調講演 介護する側・される側も笑顔になるヒント～高齢者に関する人権について～

講師： ^{な かつ}中田 ^{みつひこ}光彦 氏（社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員）



高齢者虐待が後を絶たない昨今であるが、講師は長年にわたる介護経験により介護の在り方に大きくさびを打ち込む実践を重ねている。笑顔と意欲を引き出す介護についてお話いただきました。

〔講演要旨〕 介護の現場では多くの介護者がストレスを抱えこみ、それが高齢者への虐待という形で表れている。中でも「認知症」の方に対しては、多くの介護者が「認知症＝何もできない。わからない」という思い込みを持っている。一方、被介護者においては、「何もできない。わからない」という扱いをされることに拒否感を抱いている。老いていく

人間に対する人格や人権を無視した行為により傷つく多くの人たちの姿が浮かび上がる。このような課題のある現場において介護者としてやりがいのある介護を実践してきた。例えば特別養護老人ホームでは入居者100人の希望を個別に聞き、寝たきりの人や認知症の人に付き添ってパチンコや居酒屋へいくことや海水浴等を実現し、利用者の笑顔と意欲を引き出してきた。本人の意思を尊重することで、できなかったことができるようになっていく。それは介護者にとっても喜びであり、楽しみの一つである。介護をされている人たちにも『介護保険を活用・コツを活かそう・介護に遊びを』の3つのポイントで楽する介護」をすすめる。

シンポジウム テーマ「高齢者とその生活を支える人の人権」

「高齢者やその家族が安心して地域生活が送れる社会を実現するためにはどのような取り組みが必要なのか」について考えました。

＜静岡県人権会議委員 ^{とだ みやこ}戸田 美也子 氏＞

介護する人もされる人も、認めてほしい、聞いてほしい、評価してほしいと思っている。人間関係を築くところから始まる。

＜小規模多機能センター りん 施設長 ^{もり しげひろ}森 茂廣氏＞

健常者だけが生きる社会はかたくてもろい。地域を見守る民生委員をはじめとして、地域が力を合わせて取り組むこと。絆をつなぐこと。そのためには地域が一体となって考えるシステムが必要となる。

＜基調講演講師 ^{な かつ}中田 ^{みつひこ}光彦氏＞

ネットが発達し、ますます人間関係が希薄になる社会になってくる。お互いに、顔の見える関係作りが大切であり、気軽に声をかけられるような地域づくりが必要である。

＜静岡県人権啓発センター長 ^{つのがえ ひろし}角替 弘志氏＞

近隣の人たちがお互いに顔を合わせて、親しく言葉を交わすこと。人と人とのつながりやかかわりを大切にしていくことが、一層求められてくる。



テーマ LGBTと企業 ～職場でのダイバーシティを考える～

講師： ^{すぎやま} 杉山 ^{ふみの} 文野 氏（株式会社ニューキャンバス代表）



県内の企業・団体などの代表者、人事・労務管理担当者、研修担当者等を対象に、「企業と人権セミナー」を開催しました。講師として、株式会社ニューキャンバス代表の杉山文野氏をお招きし、性同一性障害の診断を受けたご自身の体験を交えながら、性的少数者への理解と企業としての対応についてお話いただきました。

〔講演要旨〕カラダの性だけでなく、ココロの性（性自認）とスキになる性（性指向）を考え合わせると、多様な性の組み合わせが存在する。性的少数者の総称としてLGBTが使われているが、この4文字に当てはまらない多様な性がある。

T（トランスジェンダー）だけでも、（性別適合）手術を「する」「しない」、違和感の程度、男性（女性）から女性（男性）への移行の段階など、幅広さは限りない。結婚し、妻や子と暮らすゲイの人もいる。世間に合わせて生きてきたのである。セクシュアリティは目に見えない。いないのではなく、身近にいても言えずにいるのである。怖くて言えずに暮らす中では、トイレやお風呂、パスポート、選挙、免許証など、男女のどちらかであることが求められる困難な場面があり、その時に誰にも相談できない辛さがある。

企業では、性的少数者が社員として働きやすい職場づくりと性的少数者をマーケットとして提供するサービスの検討が始まっている。

相談窓口の設定や、慶弔休暇や看護のための休暇などの福利厚生面の社内規定の改善が多くの企業で進められている。また、就職説明会で性的少数者向けの説明を行うなど、企業として、差別をしない姿勢を伝える取組もある。面接時の服装といったことから不安を抱える性的少数者にとって、企業のこうした姿勢が安心感を与える。実際に相談が行われなくても、相談窓口があることで安心できる。「見えないけれど性的少数者がいる」という前提での環境づくりが大切である。

カミングアウトは本人次第であるが、信頼しているという意思表示でもある。性的少数者に限らず、信頼して相談してくれたことに、先ず「ありがとう」の気持ちを伝えたい。また、周囲との情報共有が必要になる場面では、必ず本人の意向を確認しながら進めたい。

〔参加者の声〕「講師の経験やその時々を考えていたことを含めた講演で本当に中身の濃い2時間だった」「職場に持ち帰り、出来ることを今一度考えてみたい」など、参考になるお話で改めて考える機会になったという声が多く聞かれました。

〔企業の取組〕 県内の企業では「LGBTの理解」に関する研修が進んできています。研修を受講した方からは、「知らない間に傷つけてしまっている可能性があるという怖さを感じた」「LGBTの方がいるということを知り、発言をすることの大切さがわかった」等の声があがっています。

LGBTを含めて多様性が活かされる企業づくりが求められています。

人権啓発センターからのお知らせ

人権啓発センターライブラリーからのご案内

☆ 新着図書

書名	著者	出版社
LGBTsの法律問題 Q&A	大阪弁護士会人権擁護委員会	LABO (大学図書)
セクシャルマイノリティ Q&A	LGBT 支援法律家ネットワーク出版プロジェクト	弘文堂
LGBTQ を知っていますか？ “みんなと違う”は“ヘン”じゃない	星野慎二	少年写真新聞社
わたしらしく、LGBTQ1 シリーズ 4巻構成	ロバート・ロディ、ローラ・ロス	大月書店
いろいろな性、いろいろな生きかた シリーズ 3巻構成	監修：渡辺大輔	ポプラ社
職場におけるLGBT入門	特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ	特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ
職場におけるLGBTワークショップ	特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ	特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ
人権でめぐる博物館ガイド	解放出版社	解放出版社
部落差別解消法	奥田均、谷川雅彦他	部落解放・人権研究所
Q&A 部落差別解消推進法	部落解放同盟中央本部編	解放出版社
ガイドブック 部落差別解消推進法	奥田均編著	解放出版社
語り継ぐハンセン病 瀬戸内3園から	山陽新聞社編	山陽新聞社
13歳、「私」をなくした私	山本 潤	朝日新聞出版

☆ 新着DVD

DVD、ビデオ名	分類	区分
風の匂い	ドラマ	障害のある人の人権
そんなの気にしない -同和問題-	ドラマ	同和問題
認知症と向き合う	ドラマ	高齢者の人権
秋桜の咲く日	ドラマ	障害のある人の人権
LGBTを知ろう	研修用	その他の人権問題
マタニティハラスメント 女性が安心して働ける職場環境に	研修用	女性の人権
セクハラ・パワハラその現状と対策	研修用	企業・CSR
はやわかり ハラスメント対策 <セクハラ・マタハラ防止最前線>	研修用	企業・CSR

その他のものも多数揃えています。詳しくはホームページでご覧いただけます。

貸し出しに際しての留意事項

貸出申請 所定の様式（ホームページよりダウンロード可能）
 貸出数 書籍…1回につき5冊以内 DVD・ビデオ…1回につき3本以内
 貸出期間 2週間以内
 ※ライブラリー閲覧スペースにて、視聴も可能です。
 ※郵送等による貸出もできます。 **返却時の送料のみ利用者負担です。**
 受付時間 月曜日から金曜日 9:00～17:00 休日、年末年始（12/29～1/3）は除きます。
 ご希望の資料が貸出中の場合もありますので事前にお問い合わせください。

平成30年3月発行

（平成29年度 法務省委託事業）

静岡県健康福祉部福祉長寿局地域福祉課人権同和对策室（静岡県人権啓発センター）

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館内

TEL 054-221-3330 FAX 054-221-1948

e-mail jinken@pref.shizuoka.lg.jp http://jinken.pref.shizuoka.jp/

印刷用の紙にリサイクルできます。
 この印刷物は、7,000部作成し、1部あたりの印刷経費は10.3円です。